

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は申請課題名)	非溶血性輸血副作用症例から検出された抗血漿蛋白質抗体の特異性の解析 (同上)
研究期間（西暦）	2018年4月～2019年3月
研究機関名	日本赤十字社 血液事業本部 中央血液研究所
研究責任者職氏名	研究開発部 参事 渡辺 嘉久

※理解しやすく、平易な文言を使用した課題名

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

輸血を受けたときに希にですが、様々な副作用が起こることがあります。その中でもショックや荨麻疹などの副作用（非溶血性輸血副作用）の原因として血漿（血液のうち、赤血球や白血球などの細胞成分以外の液体成分）に存在するタンパク質に対する抗体が想定されていますが、原因として認められたものはごくわずかです。抗体はヒトの体に外部から侵入してくる病原体などの異物を排除する生体防御のためのものです。したがって、副作用の原因として抗体を調べるときには、それらが本当に原因であるか、あるいはたまたま存在していただけなのか、という区別をしなければなりません。これまでの中央血液研究所における調査から、副作用を経験された患者さんの血中からは様々な抗体が見つかっていますが、この研究ではそれをさらに進めて副作用の発症により強く関与するであろう抗体の性質や特異性を調べます。この研究を行うことにより、輸血副作用への理解が深まるとともに予防法などの対策を講ずることが可能となり、より安全な輸血の実現に近づくものと思われます。

2 使用する献血血液等の種類・情報の項目

献血血液の種類：重篤な非溶血性輸血副作用症例で使用された血液製剤由来血漿。

献血血液の情報：「非溶血性輸血副作用症例で使用された」という情報。

他の血液の種類：2015年までに中央血液研究所に検査のために送付された患者検体（血漿あるいは血清）のうち、アナフィラキシーショック等の重篤であった症例の患者検体（血漿あるいは血清）。

他の血液の情報：非溶血性輸血副作用に係る情報（年齢、性別、血液型、妊娠歴、輸血副作用歴、アレルギー素因、原疾患、副作用の症状、輸血された製剤種別、副作用関連検査の結果等）。

3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名

共同研究機関はありません。

4 研究方法《情報の具体的な使用目的・使用方法含む》

献血血液等のヒト遺伝子解析：■行いません。 □行います。

《研究方法》

この研究では二次元電気泳動という手法を用いて、重篤な副作用を発症した患者

検体（血漿あるいは血清）に存在する抗体を検出します。この方法を用いることにより、これまで検出が難しかった未知の抗体や微量しか存在しない抗体についても検出することができるようになります。さらにその抗体が実際に輸血に使われた血液製剤と反応するか等の検討を行います。また、反応する物質（タンパク質）が未知の場合には質量分析などの手法を用いてその同定も試みます。そのようにして抗体が見つかった症例については、上記の非溶血性輸血副作用に係る情報を考慮し、その抗体が副作用の発症に関与した可能性について検討します。

5 献血血液等の使用への拒否について

本研究の対象者に該当する可能性のある方は使用の差し止めや情報の開示等請求することができます。

6 上記 5 を受け付ける方法

研究期間末日（2019年3月31日）までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。

本研究に関する問い合わせ先

所属	日本赤十字社 血液事業本部 中央血液研究所
担当者	渡辺 嘉久
電話	03-5534-7509
Mail	kenkyuu2@jrc.or.jp